

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成25年8月12日
【四半期会計期間】	第39期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	株式会社シャルレ
【英訳名】	CHARLE CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 奥平 和良
【本店の所在の場所】	神戸市中央区港島中町七丁目7番1号
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。

（上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記において行っております。）

【最寄りの連絡場所】	神戸市須磨区弥栄台三丁目1番2号（本社）
【電話番号】	078(792)8565
【事務連絡者氏名】	経理部長 岩永 信幸
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第38期 第1四半期連結 累計期間	第39期 第1四半期連結 累計期間	第38期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	4,656	4,624	21,271
経常利益(百万円)	103	126	777
四半期(当期)純利益(百万円)	98	90	418
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	176	53	721
純資産額(百万円)	19,266	19,290	19,811
総資産額(百万円)	22,646	22,658	23,868
1株当たり四半期(当期)純利益金 額(円)	5.13	4.71	21.84
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	85.1	85.1	83.0

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社企業グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、当第1四半期連結会計期間より報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社企業グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

##### 経営成績

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、円安による輸出企業の持ち直し等により、製造業を中心に企業収益が改善し、景気の回復基調が見られました。一方、海外経済においては、欧州の債務問題や中国の景気減速など、景気の下ぶれリスクが依然として懸念される状況にあります。

このような経営環境のもと、当社企業グループは「美と健康」の事業領域を中心に、人々の豊かさを追求する企業として、独自の商品の開発・提供、魅力的なサービスやビジネスシステムの提供を行うことで「美しく健康的な生活」を提案してまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における当社企業グループの売上高は46億24百万円（前年同四半期比0.7%減）、営業利益は1億17百万円（同22.8%増）、経常利益は1億26百万円（同21.4%増）、四半期純利益は90百万円（同8.1%減）となりました。

#### (国内レディースインナー等販売事業)

国内レディースインナー等販売事業は、販売組織の再活性化と収益構造の改善を方針に掲げ、事業改革に着手しました。従来どおり「美と健康のシャルレ」として、健康関連分野の商品や化粧品等、機能性が高く、かつ独自性のある商品の開発・提供をより一層強化するとともに、次世代を担うビジネスメンバーの育成や、新たなターゲット層への商品開発等にも積極的に取り組んでまいりました。

商品面におきましては、前期に引き続き、健康関連分野の商品の拡充を図りました。4月には、ウォーキング等の軽運動に適した商品として「サポートウォーク ウエア 2013春夏」のパーカー、カットソー、パンツを発売しました。スポーツウエアとしての機能性に加え、トレンドを意識した若々しいデザインが評価されました。5月には、姿勢意識インナーに夏仕様のキャミソールタイプを、6月には、前期に発売した肩ストレッチインナーに半袖タイプを追加発売いたしました。

また、夏場の快適な睡眠をサポートするアイテムとして、6月にガーゼ素材のナイトイヤタオルケット、シーツ等を発売いたしました。同時に、冷却用のジェルパックを入れて就寝時に使用できるピローパッドも発売し、売上が好調に推移いたしました。

化粧品類につきましては、前期に発売いたしました基礎化粧品の「エタリテ ライン」を中心に定番のエタリテシリーズの売上が好調で、前年実績を上回りました。また、6月には、ヘアケアシリーズの「シャルエーゼ」に頭皮の余分な皮脂や汚れを取り除くことで、健やかな頭皮を保つ「頭皮クリアクレンジング」を発売し、アイテムの拡充を図りました。

営業施策面におきましては、4月に全代理店を対象とした「第30回シャルレ代理店セミナー」を実施し、中期経営方針や各種施策の共有化を図るとともに、代理店との一体感を醸成し、活動意欲の向上に繋げました。販促面においては、化粧品類の販売活動を支援する策として、新たなボーナス制度の導入を発表し、販促意欲を喚起いたしました。また、前期に引き続き新メイト育成キャンペーンを実施するとともに、ビジネスメイトの育成策として、ビジネス説明会等の会合への動員強化を実施いたしました。

このように、積極的な事業展開を行った結果、国内レディースインナー等販売事業の売上高は45億91百万円（前年同四半期比1.2%増）となりましたが、在庫評価損の増加等により、営業利益は1億63百万円（同21.6%減）となりました。

(海外レディースインナー等販売事業)

海外レディースインナー等販売事業におきましては、中国の百貨店での店舗販売を、上海の旗艦店を中心に12店舗で行ってまいりました。かねてからの課題であった収益性の改善に関して、不採算店舗1店舗を閉鎖し、2店舗を代理商へ営業譲渡いたしました。また、本社社員の削減や事務所の移転等、本社経費の削減にも着手してまいりましたが、円安の影響も受け、海外レディースインナー等販売事業の売上高は33百万円（前年同四半期比6.9%減）、営業損失は29百万円（前年同四半期は22百万円の営業損失）となりました。

資産、負債および純資産の状況

総資産は、現金及び預金の減少2億42百万円、有価証券の減少2億69百万円、商品の減少2億48百万円等により、前連結会計年度末に比べ12億9百万円減少して226億58百万円となりました。

負債は、買掛金の減少1億91百万円、未払金の減少3億97百万円等により、前連結会計年度末に比べ6億88百万円減少して33億68百万円となりました。

純資産は、四半期純利益90百万円、利益配当金5億74百万円等により、前連結会計年度末と比較して5億21百万円減少し、192億90百万円となりました。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の83.0%から85.1%に上昇しました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社企業グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、23百万円であります。なお、当第1四半期連結累計期間において、当社企業グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	84,000,000
計	84,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	21,034,950	21,034,950	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式であり、単元株式数は100 株であります。
計	21,034,950	21,034,950	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	-	21,034	-	3,600	-	4,897

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,869,000	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,155,900	191,559	同上
単元未満株式	普通株式 10,050	-	同上
発行済株式総数	21,034,950	-	-
総株主の議決権	-	191,559	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義失念株式100株が含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式にかかる議決権の数1個が含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株)シャルレ	神戸市中央区港島中町 七丁目7番1号	1,869,000	-	1,869,000	8.89
計	-	1,869,000	-	1,869,000	8.89

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）および第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について大阪監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	7,908	7,665
売掛金	133	159
有価証券	2,409	2,140
商品	4,750	4,502
貯蔵品	34	34
繰延税金資産	486	486
その他	457	151
貸倒引当金	13	16
流動資産合計	16,166	15,123
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,324	1,323
土地	907	907
その他(純額)	528	497
有形固定資産合計	2,760	2,729
無形固定資産		
その他	756	733
無形固定資産合計	756	733
投資その他の資産		
投資有価証券	2,495	2,430
前払年金費用	717	706
繰延税金資産	427	427
その他	558	520
貸倒引当金	11	11
投資その他の資産合計	4,185	4,073
固定資産合計	7,702	7,535
資産合計	23,868	22,658



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,062	870
未払金	1,424	1,027
未払法人税等	30	25
賞与引当金	185	117
その他	226	402
流動負債合計	2,929	2,443
固定負債		
売上割戻引当金	214	215
退職給付引当金	470	440
長期未払金	208	52
その他	234	216
固定負債合計	1,127	924
負債合計	4,057	3,368
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,600	3,600
資本剰余金	4,897	4,897
利益剰余金	12,789	12,304
自己株式	1,295	1,295
株主資本合計	19,992	19,507
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	133	197
為替換算調整勘定	47	19
その他の包括利益累計額合計	180	216
純資産合計	19,811	19,290
負債純資産合計	23,868	22,658

( 2 ) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 】

【 四半期連結損益計算書 】

【 第 1 四半期連結累計期間 】

( 単位 : 百万円 )

	前第 1 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日)
売上高	4,656	4,624
売上原価	2,330	2,529
売上総利益	2,326	2,095
販売費及び一般管理費	2,230	1,977
営業利益	95	117
営業外収益		
受取利息	6	7
受取配当金	0	0
雑収入	6	4
営業外収益合計	13	12
営業外費用		
支払利息	0	1
持分法による投資損失	3	-
為替差損	1	-
社宅解約損	0	0
雑損失	0	1
営業外費用合計	5	3
経常利益	103	126
特別損失		
固定資産除却損	1	0
投資有価証券評価損	0	-
店舗閉鎖損失	-	20
特別損失合計	2	20
税金等調整前四半期純利益	101	105
法人税、住民税及び事業税	3	15
法人税等合計	3	15
少数株主損益調整前四半期純利益	98	90
四半期純利益	98	90

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	98	90
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	57	63
為替換算調整勘定	12	27
持分法適用会社に対する持分相当額	7	-
その他の包括利益合計	77	36
四半期包括利益	176	53
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	176	53
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	79百万円	92百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	574	30	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	574	30	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内レディース スインナー等 販売事業	海外レディース スインナー等 販売事業	LED照明 販売事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,538	35	82	4,656	-	4,656
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	7	-	-	7	7	-
計	4,546	35	82	4,664	7	4,656
セグメント利益又は 損失( )	208	22	34	151	55	95

(注)1 セグメント利益又は損失( )の調整額には各報告セグメントに配分していない全社費用55百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間（自平成25年4月1日 至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内レディース インナー等 販売事業	海外レディース インナー等 販売事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,591	33	4,624	-	4,624
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	0	-	0	0	-
計	4,592	33	4,625	0	4,624
セグメント利益又は 損失( )	163	29	134	16	117

(注)1 セグメント利益又は損失( )の調整額には各報告セグメントに配分していない全社費用16百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

当第1四半期連結会計期間より報告セグメントとして記載する事業セグメント「LED照明販売事業」を廃止しております。

これは、LED照明販売事業を営む株式会社シャルレイテックを平成24年12月3日付で外部に譲渡したことによるものであります。

これにより、当第1四半期連結会計期間より「国内レディースインナー等販売事業」、「海外レディースインナー等販売事業」の2つを報告セグメントとしております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	5.13円	4.71円
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	98	90
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	98	90
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,166	19,165

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 5日

株式会社シャルレ  
取締役会 御中

大 阪 監 査 法 人

代表社員 公認会計士 洲 崎 篤 史 印  
業務執行社員

業務執行社員 公認会計士 木 下 隆 志 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社シャルレの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社シャルレ及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。